

学校案内

舞岡のこの地に小学校をという声が大きくなってきたのは昭和50年頃からである。小学校がほしいという地域の熱い要望が柏尾小学校分校新設促進委員会結成となって実り、陳情が始まった。昭和60年には、開校準備委員会も発足し、11月19日起工式を行い校地の造成を開始、その後新校舎建設を61年7月に開始している。約9カ月の後、昭和62年4月1日、「横浜市立舞岡小学校開校宣言」をした。

初代校長は、川口迪也氏である。5月にはPTAを発足させ、11月には地域のお年寄をお招きして交歓給食会をしている。現在4年生が毎年実施している舞岡川の源流探索を兼ねた清掃活動は、当時は5年生が行い、この日に第1回を記録している。その年の11月19日には創立1周年記念式を行い、舞岡川に鯉の稚魚を放流している。また、本校在校生の保護者であった小泉久子氏原案になる校章もこの日に制定している。同じく在校生の保護者であった田中康子氏が作詞し、平井哲三郎氏が作曲した校歌は翌年の11月19日に制定された。

昭和63年9月には、NHKの教育番組4年生「くらし発見」で、舞岡小学校を舞台とした公園造りの話が全国に放映された。この年の12月、眼科校医秋元清一氏より日展入選作品「中華街の姉妹」の大作が寄贈された。職員玄関に展示されている。平成元年7月には給食優良校として、市より表彰を受けた。翌年1月にはさらに県より表彰を受けている。12月には、電気による自動焼窯庫を設置、翌年から使用している。平成2年には、全校による稲作活動も行い、秋の全校稲刈の様子はTV神奈川「あすをひらく」でも紹介された。この年の10月には、横浜市教育委員会の研究協力校として、「地域の教育力」を生かした「生活科・社会科・理科」の授業公開と研究発表を行った。

学級数は12学級で、開校して以来変化はない。学区は、舞岡第1町内会・第2町内会第3町内会の3地域に分かれている。児童数は、開校してから数年間は、380人前後を推移していたが、現在は、300人余りである。町内会別の児童数は、第2が最も多く全体の半数を占める。第3町内会地区の児童が最も少なく1割に満たないが、広範囲に点在している。現在児童は、集団登校をしている。学区は、南北に細長く、いちょうの葉のような形をしており、南側に市営地下鉄の舞岡駅、中央部には神奈川中央交通舞岡営業所が位置している。東経139度33分13秒、北緯35度24分14秒、標高21Mの位置にある。

平成3年地域と児童と自然のふれあいの輪が育つようと舞岡川の一部を改修し、「ふれあい広場」を造り舞岡アメニティーゾーンとした。このため、舞岡駅から川辺を歩いて直接校庭にたどり着くことができるようになった。交通は、戸塚駅より神奈川中央交通バスを利用して7～8分、終点で下車する。地下鉄舞岡駅からは、徒歩8分の距離である。近くには大規模開発プロジェクトによるリサーチパークがある。

校庭は、以前水田であったところを造成してあることと、構造的には遊水池として工事してあるため、雨の日など排水しきれない雨水が校庭に溜ってしまうことがある。時には舞岡湖と称して児童の格好のどろんこ広場になってしまうこともあった。

校舎は、中庭を取り囲む形で3階建てであり、屋上にプールがある。校門付近の禽舎にはアヒル・ヤクヤギ・チャボ・ウッコウケイが飼育されていた。ヤクヤギ・アヒルの飼育には青菜や敷き藁などの提供等、地域の温かい協力があり、地域の教育力の実践ともいえる。

児童の体験学習として、地域に依頼して学年の農園、さつまいもの畑等をお借りし、栽培活動をしている。

平成4年、開校5周年を迎えた。4月には横浜市教育長の上野初雄氏より人権教育啓発の講演を受ける。この年は5周年記念秋季大運動会、5周年記念舞岡こどもフェスティバルを実施している。また学校五日制にともない推進委員会を発足。自主事業を行っている。市民図書室も開設し、土、日の地域利用を進めている。学校教育強調目標は、一貫して「豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもたち」である。地域や自然に開かれた学校として独自のあゆみを進めてきたが、心のふれあいを重視し、地域に根ざす創意を生かした学校教育活動を進めようとしている。

平成10、11年度には「わがまちの学校づくり」の実践校としての委嘱を受ける。開校以来継続してきた学校、地域との連携で行う活動をより豊かに充実させた。「わがまち舞岡ヒーローランド」をテーマに、舞岡のすぐれた文化を見直し、児童の心に種子を蒔き一人一人が主役となるよう、その芽を育てていくことがねらいである。校内重点研究では舞岡の地域素材や人材を学習の中に生かした「まいおか単元」作りの研究を継続して行ってきた。また平成10年度まで、春に実施してきた五日制自主事業「舞岡こどもフェスティバル」を平成11年度より児童が主体的になって企画運営する学校行事とした。実施時期を秋とすることで、児童の活動に、より豊かな実りを期待している。

平成11年度、「舞岡まつり in'99」が11月13日（土）実施される。4、5、6年児童による実行委員会が4月に組織され、講座の選択、まつりの運営など、実行委員会が推進となり、児童の思いが深まる講座体験のまつりが実現した。当日は、すばらしい天候にも恵まれ、75名の地域講師の指導のもと、14の講座が開かれた。保護者をはじめ、教育関係者など、244名の参観者があった。このまつりの様子は、ケーブルテレビでも放映された。

平成12年度からは、「舞岡まつり」を総合的な学習の時間の教育課程に位置付けていく。平成12年1月20日、全校の児童に親しまれていた黒ヤギのメイ太郎が老衰のため亡くなる。舞岡の黒ヤギは、舞岡小学校の児童だけでなく、地域にも親しまれていて、舞岡小学校の特色の一つともいえる存在であった。平成12年度4月、市教育委員会より、ゆめはま教育プランに基づく「学びの内容」改善モデル校の委嘱を受ける。「環境に働きかけ、学習や体験を創り出していく子を育てる」を研究主題として、子どもの学びのプロセスを追いながら、総合的な学習の時間の内容の研究を行なった。11月18日（土）体験講座活動「舞岡ふれあいひろば in 2000」を全市に向けて発表し、研究報告を行うとともに、リーフレットを作成し、全市に配布した。平成11年度1月より学校教育目標改編作業を進めてきたが、新指導要領、新よこはま教育プランを基盤とし、地域、保護者、児童、職員からのアンケートを参考にして本校の学校教育目標を作成する。「個性」「自立」「横浜」を重点とする本校の取り組み目標を設定した。学校教育目標を基に、総合的な学習の時間、道徳、特別活動の全体構造図も作成し、新教育課程編成作業への準備を進めた。PTA活動として、「家庭教育学級」を開講する。6月から3月まで、全6回の講座が開かれる。1月20日、戸塚区学地連情報交換会において、本校の体験学習について稲作体験を中心に実践報告をする。1月31日、「市ゆめはま教育プラン推進協議会」において、「まちとともに歩む学校づくり」の実践報告を行う。

平成13年度4月、市教育委員会より、「幼・保・小教育連携開発モデル校・モデル園事業」の委嘱を受ける。異年齢の子どもとの交流活動の中で、互いに教え合い、楽しい時間を共有することで、児童は自分自身を見つめ、自信をもつことができ、豊かな心に支えられた自立のプロセスも明らかになると想定し、研究に取り組んだ。委嘱2年目となる平成14年度は、11月に全市に向け、2年間の成果と課題を発表した。

国際理解教育では、子ども国際平和スピーチコンテスト区選抜会において、2年連続で、本校6年児童が戸塚区の最優秀賞に選ばれ、市の大会に参加した。

平成12年度に結成された舞岡小学校合唱団も4年生以上60名余の団員の日々の練習成果が確実な実を結び始めてきた。8月には、NHK神奈川大会で銅賞を受け、同じく8月にTBS子どもコンクールで最優秀賞を受賞するなど、大きな成果を上げた。舞岡の音楽は、創立以来、子どもと教師によって大切にはぐくまれてきたもので、学校の一つの特色とも言える。また、動物の飼育も学校の特色といえるが、平成13年度にアヒルや鶏の小屋が全面改修された。動物とのふれあいも子どもたちの心を豊かに支えるものである。

平成14年度は、「幼・保・小教育連携開発モデル校・モデル園事業」の移植を受けて2年目となった。園との交流も担当者会議を昨年より密に行うなど、双方の職員の理解の深まりとともに、交流の内容も充実してきた。国語や音楽、図工など教科を通じた交流も工夫が見られた。また、6年生では、「生命を見つめよう」をテーマに、わかば保育園の乳幼児に関わる活動が通年にわたって展開された。小さな乳幼児とのふれあいから、児童は幼い相手を思いやる気持ちを育むとともに、生命の尊さにもふれることができた。委嘱2年目ということで、7月25日には、経過発表を関内ホールで行い、11月22日には、2年間の研究成果の授業公開を伴って、全市に向け発表した。当日は、正式な公開授業前の園児と1、2年生の仲良しランチ（給食交流）から参会者が訪れるなど、多くの参会者の授業参観と研究会参加があった。参加者は、263名であった。

平成14年度より、舞岡小学校のホームページを市教育委員会「YY・Net（ワイワイネット）」上に開設した。

平成17年度には、屋上に太陽光発電システムが取り付けられ、「川と緑と太陽と」のキャッチフレーズとともに、新しい舞岡小の特色となった。

平成18年度には、創立20周年を迎え、「ハッピーフェスタ20th！！舞小運動会」・「ふれあいひろば」などを行った。全校より募集して、記念キャラクター「マイキー」、記念曲「大好きまいおかアニバーサリー20th」が作られた。

平成19年度は、学年ごとに歌や合奏を発表する、「マイコンサート」を開き、日頃の音楽学習の成果を披露した。

平成20年度は、平成23年度から始まる新学習指導要領実施への移行準備として、YICA準備校、文科省の長期宿泊体験（長野県阿南町4泊5日）の指定校を受けた。

平成21年度も引き続き阿南町での5年生の長期宿泊体験学習を行った。他学年はその期間中にサマースクールを行った。またYICAを正式に授業に取り入れた。

平成22年度には5年生長期宿泊体験学習の場所を千葉県鴨川市へ変更し、3泊4日の宿泊体験学習を行った。日本学校歯科保健優良校、県歯科保健優良学校の優秀校として表彰を受ける。

平成23年度には、環境教育実践推進校の委属を受け、舞岡の自然や舞岡川、じゃぶじゃぶ池を生かした環境教育を研究・実践した。また、全日本学校歯科保健優良校として表彰を受ける。

平成24年度には、5年生が総合的な学習の時間に木原生物学研究所と共同で麦を育て、環境教育と食育の学習を進めた。

平成25年度には、環境教育、食育、命の学習を含めた総合的な学習の時間の一環として「おさかな学習会」を実施した。